

日本学士院の国際学士院連合推薦事業と東京大学 史料編纂所の海外(オランダ語)史料研究について

横山伊徳

今紀要に、上記特集を組むにあたり、その前提となった国際研究集会と日本学士院の国際学士院連合推薦事業、およびそれらとの史料編纂所の関わりについて簡単に説明したいと思います。

日本学士院は、戦前から在外日本関係史料に関心を払ってきました。1921(大正10)年、東京帝国大学文学部史料編纂掛の責任者であった学士院会員三上参次は、第2回国際学士院連合の総会において在外日本関係史料の蒐集への協力を要請しています。この写本は現在も日本学士院に所蔵されています。戦後、日本学士院は史料蒐集事業を35ミリマイクロフィルム撮影の形で再開しました。その実務を受け持った東京大学史料編纂所は、世界各国から122万コマ余りの史料複製を集積し、その検索手段として『日本関係海外史料マイクロフィルム目録』を、また、これらの研究成果として『日本関係海外史料』を刊行しています。現在日本史研究は広く東アジア、あるいは地球規模の歴史展開の中で、日本史固有の歴史的事象を取り扱うようになりました。特に所謂「世界史の一体化」が展開する16世紀以降の研究にとって、日本学士院と史料編纂所が共同した在外日本関係史料の蒐集研究事業は、その研究基盤を形成し、日本の歴史学界は勿論のこと、関係する各国各地域においても高く評価されています。

日本学士院は、国際学士院連合や各国学士院とのネットワークを生かし、国際的な協力体制のもとで学術研究交流を展開しています。そして、国際学士院推薦事業として新しい史料蒐集事業を再発足させるべく、2003年5月に「国際学士院連合関係事業特別委員会」を設置しました。この委員会には、史料編纂所から石上英一(当時所長)、松井洋子、そして横山が参加しました。

そこでの議論は概ね次のようなものです。第一に、蒐集対象地域や対象時期の拡大の必要性です。従来は、第二次世界大戦直後の史料公開状況に規定された蒐集プランが考えられていましたが、その後半世紀以上を過ぎ、利用できる関係史料が飛躍的に増加しています。また、第二に日本研究が国際化したことに対応して、この研究事業の成果についても、広く世界各地で利用可能なものとする事です。第三に、長期にわたる事業継続に向け、若手研究者の養成をも視野に入れることです。こうした在外日本関係史料はアジア、ロシア、欧米と多方面にわたっていますが、これまで研究交流の点で培った実績のあるオランダ史料を対象とし、東インド会社解散後の19世紀を中心に事業に着手していくことが望ましいという方針となりました。そこで、史料編纂所では、ライデン大学レオナルド・ブリュッセイ教授のアドバイスや財団法人日蘭学会の協力を得て、日蘭双方の研究者の交流を積極的に推し進めることにより、当面、研究方法や研究対象についての共通認識を深めることとしました。

2004年度にはまず、日本学士院が本蒐集事業に関係の深いオランダの研究者を招聘して、2004年10月19日に東京大学総合博物館ミュージズホールにおいて「国際研究集会 国際学士院連合推薦事業：日本関係海外史料研究 オランダを中心に」を開催しました。この集会では、ブリュッセイ教授（ライデン大学）、ヘルマン・ムスハルト博士（元ライデン大学）、松方冬子（東京大学）、石田千尋（鶴見大学）、桜庭美咲（昭和女子大学）、塚原東吾（神戸大学）の各氏に、新しい研究成果を踏まえた議論を展開していただきました。この集会にあたっては、オランダ語史料を対象とする研究分野をできる限り広く取り上げること、また、対外交渉史に関心を抱く若手研究者にオランダ語史料の魅力を伝えられるようにすること、の二つに留意しました。

本特集は、二部から構成されます。第一部は、塚原報告を除き、この集会での各報告をまとめたものを収めました。また、八百啓介氏（北九州市立大学）には、日本側各報告者の研究成果に関する当日のコメントを、英文のかたちで寄せていただきました。

また、上記の公開集会の他、史料編纂所では、ブリュッセイ教授による19世紀のアジアにおける体制変容についての、また、ムスハルト博士による写真史についての研究会を催しました。その後2005年3月には日本学士院により、シンシア・フィアレ（ライデン大学研究員、Deshima Marginaliaの編纂者）氏の招聘が実現し、その研究成果をお聞きする機会を得ました。これらを踏まえ、第二部には、ブリュッセイ、フィアレ、そして塚原の各氏に、論文をお寄せいただきました。

以上の本特集に執筆いただいた方、また研究会の組織にご援助いただいた日本学士院の諸先生、特に久保正彰先生に、改めてお礼を申し上げます。本特集が、21世紀における新しい海外史料（オランダ語）研究の出発点となると信じます。